

私の中国ビジネスの現状

株式会社 IAO竹田設計
代表取締役 竹田 秀道

私は建築設計事務所を創業致し33年目を迎えようとしております。当初は10人前後のスタッフ（所員）でアトリエ系事務所を指向しておりましたが、通常はある程度成長したスタッフは入れ替わっていくものですが私の事務所はそうではなく現在200人近い中堅の組織事務所に成長しております。

創業当時及びそれに次ぐスタッフは現在役員として事務所の骨格を担っておりますが、従いまして私の日常業務は最初に思い描いておりましたじっくりと腰を据えた物づくりの世界とはかなり違っておりまして、専ら事務所のマネージメントと人づくりそして少しでも良い仕事出来る環境づくりに専念する今日であります。

私の事務所は背景として財閥系或はそれに類する企業等の歴史的繋がりがあってもなく、前述しましたように自然発生的に成長しその規模及び実績は未だ官庁の大型プロジェクトを受注するまでには至らず、少々中途半端な実情です。1 従いまして昨今の経済環境には必死で耐えているところです。

創業当時も大変ではありましたがやがてバブルと言われる時期を迎え、事務所も個人も多少余裕ができ少し縁もあり中国人留学生のお世話をするようになりましたが、そんなことが切っ掛けとなり建築系の大学を出た人達を複数採用するようになりました。

彼らの関係で結果的に中国とのパイプが太くなっていき1995年には武漢市の国営の大手設計事務所と提携し、武漢において合弁の事務所を設立したわけでありまして。

私は日本はアジアのリーダーであり、アジアは日本を含めて一体になって発展すべきであるとの考えがありましたので、この一連の流れはそれに沿うものであったわけではあります。

現在は上海に独資の事務所を設け又北京と武漢にそれぞれに支店を設け、三局運営をおこなっております。そして日本で育った中国人スタッフをそれぞれの出身地である三つの拠点の責任者としているわけでありまして、進出来14年にもなりますのに日本人の常駐スタッフは未だにおりません。

武漢の合弁事務所はかなりの成長もし、実績も残してきておりますが中国側主導ですし、日本独資の三拠点もご覧頂きましたようにそれなりに頑張っているかには見えますが、年数の掛けて来た事を考えますと全く期待に反しております。

折角コストもかけ時間もかけながら反面その間日本があまりにも忙しすぎたため、人件費の関係もありますが日本人スタッフを長期に手放す事が出来ず、又私自身も中国側に身を委ねることも出来ませんでした。大いに反省するところでありましてなんとか挽回したいものと考えております。

幸か不幸か今日はスタッフも私もかなり余裕があり、向こうへのシフトチェンジのチャンスであると考えております。

私は生意気なようですが、地球環境問題も含めて向こうに貢献したい思いでおりますので何年かのちにこの続きをご報告できることを期待しております。